

## 巻頭言

学校文集「かしの木」に寄せて

## お国言葉

校長 成田 忠雄

メディアが発達し、情報の共有がどこにいても簡単にできるようになると、日本中どこでも話は通じるし、特にめずらしいものもなくなってしまうのではないかと心配をしたくなります。でも実はけっしてそんなことはありません。おいしい食べ物は、その産地に行って食べるのが一番おいしいし、日本中いろいろな所を訪ね歩くと、温かなその土地のお国言葉を聞くことができます。

日本一短い会話というのがあります。それは、「どさ?」「ゆさー」で通じる会話です。これは、「何処(どこ)に行くのですか?」「お湯(銭湯)に行くのです」という意味です。秋田や山形など、東北地方で話される方言です。たった一言ずつのやりとりですが、相手とのコミュニケーションがしっかりととれています。その上、そのやりとりの中になんとも言えない温かみがあります。

方言を田舎くさいと嫌う人がいます。東北弁はズーズー弁だからと言って無理にかくそうとする人もいるし、関西弁は歯切れがいいからかっこいいととらえる人もいます。他からどう見られるかとか好き嫌いとかで方言を判断するのはいかにがなものでしょう。自分の生まれた土地に根付いている方言は、いわばその土地が生んだ、その地方にだけ通じるあったかい言葉なのです。

岩手の生んだ<sup>ぎんゆう</sup>吟遊詩人である石川啄木<sup>たくぼく</sup>が、その代表作品である「一握<sup>あく</sup>の砂<sup>よ</sup>」の中で詠んでいるこの歌を思い出しました。

「ふるさとの<sup>なまり</sup>訛なつかし 停車場<sup>ていしやば</sup>の 人ごみの中に そを聴きにゆく」

上野駅は北からの汽車が到着する大きな停車場です。きっと様々なお国言葉のざわめきがあったはずです。そんな中から、自分が家族や友人、近所の人たちと使っていた言葉を感じとる。その瞬間、小さい頃の経験やふるさとの風景がよみがえってきたのではないでしょう。言葉は、あなたが生きてきたあかしでもあるのです。